

第1回ビジョン懇談会における委員意見

1. 日時

平成28年12月26日（月）10時30分～12時

2. 概要

(1) 議題

- ・連携中枢都市圏構想、都市圏ビジョンの策定について

(2) 委員からの意見

意見（要約）	事務局の回答等
【ビジョンの策定について】	
①ターゲットエリアを決めて、どこの地域の方が本圏域に来ているのかを踏まえた上で、ビジョンを策定していただきたい。	ビジョンの策定までに、基礎的な動態調査を実施します。また、必要に応じて平成29年度に、より詳細な動態調査を実施したいと考えております。
②人口データの掲載においては、自然増減を考えると若い女性に着目したデータ分析が必要ではないか。	圏域内の20～39歳までの女性の人口データを掲載いたしました。（ビジョン案P7）
③交流人口の増加と定住人口の増加に向けた取組は、別々に取り組んだ方が良くはないか。	交流人口の増加につながるよう、経営革新・創業促進などの定住人口増加に向けた施策に取り組む考え方のもとで、事業内容を整理しつつ、効果的な取組を推進したいと考えております。
④KPIに設定している新規雇用創出数の出し方を教えていただきたい。	経営革新・創業促進プロジェクトなどの支援施策を通じて創出された雇用数をカウントします。（プラス部分のみ）
【圏域の名称（愛称）について】	
①圏域を一言でイメージできるような名称はないか。そうした名称を作ることによって、圏域の効果的な情報を発信することができるのではないかと考えております。今後、各市町の長による会議や圏域住民の御意見なども伺いながら、検討したいと考えております。	御指摘のとおり、圏域の名称（愛称）をつけることで圏域イメージの効果的な発信ができるものと考えております。今後、各市町の長による会議や圏域住民の御意見なども伺いながら、検討したいと考えております。
②7つのまちが集まっているのに、「ななし」。せっかく集まってやるのであれば、圏域が向かう目標を名称に掲げるような形で圏域のネーミングを考えたらどうか。	
【担い手について】	
①公共交通など多くの産業で担い手がない。担い手をどういう形で育てていくのかをしっかりと考えていただきたい。	各市町の総合計画及び総合戦略と連携を図りながら、「産業人材の育成及び確保」事業において、交流産業をはじめとした各産業分野における担い手確保の支援等について検討したいと考えております。

意見（要約）	事務局の回答等
【高度な中心拠点の整備・広域的な交通網の強化について】	
①空港としての広域交通拠点は山口宇部空港として理解しているが、萩・石見空港の利用促進も検討していただきたい。	山口宇部空港や新山口駅の広域交通拠点の機能強化を図る中で、広域交通ネットワーク機能の強化などの取組を検討したいと考えております。
②萩・津和野線（県道13号）の機能強化を加えていただきたい。	県道13号を含め、圏域における広域的で主要な観光路線となっている道路については、県要望等を一体的に行うなど、機能強化を促進したいと考えております。
【観光施策について】	
①二次交通について、山口宇部空港や新山口駅を中心に、各都市をどう結んでいくのが重要。15分に1本程度、公共交通機関の便があるなど、観光客が不便を感じないような取組を、早急に取り組んでいくべき。防府市では、現在、自動運転でドライバーがいなくても、まちなかを巡回（車両）できるような新しいシステムを考えてみたいと思っている。新たな域内の交通のあり方について検討していただきたい。	「広域交通拠点の活用・機能強化」事業において、二次交通の充実について検討したいと考えております。
②圏域内の「食」を通じた連携、萩往還や赤間関街道等の歴史街道を活かした連携に取り組んでいただきたい。	「農林水産物の販路拡大と農山漁村の交流創出」、「広域観光連携」事業において取組を検討したいと考えております。
③人口減少対策の具体策は、交流人口を増やして地域経済を盛り上げていくこと。その具体策は観光にあるというシナリオだと思う。平成30年の明治150年は、情報発信の最大のチャンスである。明治150年に向けて各地域から色々なネタを出していただきたい。	「広域観光連携」事業等において取組を検討したいと考えております。
④宇部市や山陽小野田市等、山陽側の方々も一緒に含めた広域連携の中では、MICEが良いのではないか。スポーツ、学会、展示会は山陽側の大企業の皆さんのところにはかなりあるのではないかと。これまでこうしたものと観光は関わってなかったが、山陽と山陰が交流するところは、そこが具体的に見える策ではないかと思う。	「MICE誘致の推進」、「広域観光連携」事業において取組を検討したいと考えております。
⑤体験というのが一つのキーワードになってくると思う。都会ではありえない時間を楽しむ、そういう空間づくりが大事。修学旅行生でも、以前のように史跡等を見るのも大事だが、プラスαの色々な体験をするようなものを造っていけば良いのではないかと。	新たな広域観光資源創出プロジェクトにおいて取組を検討したいと考えております。
⑥圏域内の観光施設の情報をきちんと整理して発信する体制をお客様目線で作っていただきたい。またそれを毎回きちんとアップデートしていくことが必要。	「広域観光連携」事業において取組を検討したいと考えております。

意見（要約）	事務局の回答等
【観光施策（インバウンド）について】	
①案内板やガイドの充実が必要。	県・関係団体とも連携を図りながら各市町の取組や「広域観光連携」事業において取組を検討したいと考えております。
②人間文化の再現、すなわち圏域住民の日々の生活において、畳や床、掛け軸などが使われているような魅力を作ることで、海外の方が魅力を感じるのではないか。	各市町の総合計画及び総合戦略と連携を図りながら、今後、海外の方に魅力を感じていただく取組を研究したいと考えております。
③LCC等、国際線誘致を積極的に行い、圏域の周遊につなげていくことが求められている。	県と連携を図りながら「広域観光連携」、「広域交通拠点の活用・機能強化」事業において取組促進を検討したいと考えております。

3. 第1回ビジョン懇談会以降に提出された意見について

意見（要約）	事務局の回答等
【中山間地域の振興と定住人口について】	
<p>①圏域内からの企業進出・商業振興など、市域を超えた事業の積極的な実施や支援を行うとともに、中山間地域の生活の利便性を図るための小規模な商業施設、金融機関、ガソリンスタンドなどを集積した拠点を整備する政策を圏域として推進する。</p>	<p>企業進出・商業振興については、「起業・創業支援」、「ビジネスマッチング・連携の支援」、「企業誘致等の推進」事業において取組を検討したいと考えております。また、中山間地域の生活の利便性を図るための拠点を整備する政策については、各市町の総合計画や総合戦略による取組を基本として、圏域内における連携や補完を図りたいと考えております。</p>
<p>②人口の定住を図るため兼業農林家を育成し、中枢地区で企業に勤務しながら農林業に従事できる働き方の仕組みを作り、中山間地域の人口の維持・増加を図る。</p>	<p>定住人口を維持するために、圏域内で雇用を創出し、圏域内で働く場を確保する取組を展開したいと考えております。</p>
【広域観光を活性化するアイデアについて】	
<p>①インバウンド向けの広域観光プログラム提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書道」、「水墨画」、「生け花」、「茶の湯」、「和楽器（例えば琴）演奏」、「和紙づくり」等の日本文化体験ツアーを宿泊とセットで商品化する。 ・体験時の小道具を記念の土産物として販売する。（例えば、墨、硯、筆、剣山、花鋏、茶杓、茶筌、琴爪、琴柱、和紙、etc.） 	<p>「広域観光連携」事業において取組を検討したいと考えております。</p>
<p>②広域観光ナビゲーションアプリの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空港やJR駅等を起点に、名所旧跡、グルメ、エンターテイメント、宿泊、交通（目的地へのルート）、etc.の多言語案内をスマートフォンやタブレットから利用出来るようにする。 ・案内は単なる静止画面ではなく、VRやAR技術を駆使して、その土地の歴史やエピソードを楽しみながら学べるようにする。 ・スマートフォンやタブレットを利用したスタンプラリー（ポケモンGOのようなスタイル）を実施し、集めたスタンプの数に応じた景品（県特産品）を出す。 	<p>「広域観光連携」事業において取組を検討したいと考えております。</p>
【博覧会の開催について】	
<p>①行政計画としてのビジョンの内容はこのような形になると理解しているが、わかりやすいリーディングプロジェクトが必要ではないか。2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、来訪する外国人観光客や国内観光客を、圏域内に呼びこむことで、交流人口や雇用の創出につながるのではないか。そこで、オリンピックを契機として、ビジョン計画最終年度となる2021年に圏域内の地域資源を活用した「博覧会」を開催してはどうか。</p>	<p>別添、参考資料1-1～1-3参照。</p>